

2025 3 NO. 3 GENDER EQUALITY LETTER

印西市市民活動推進課
男女共同参画係
33-4431 (直通)

印西市男女共同参画通信

「国際女性デー」 3月8日
(女性に日頃の感謝を込めて、ミモザやカーネーションを贈る習慣があります。)



▶目次

- ☑ コスモスパレットⅡに男女共同参画センター開設
- ☑ 各種相談会場変更案内
- ☑ シネマ喫茶本庁ニカイ 出張ライブラリー

印西市男女共同参画センター開設

令和7年4月1日から、コスモスパレット(中央駅前地域交流館)パレットⅡ3階に、印西市男女共同参画センターを開設いたします。

男女共同参画センターは、男女共同参画社会の実現に向けた活動の拠点施設として、市民の皆様にご利用いただけます。利用できる方は、市内に在住、在勤、在学の方及びこれらの方々と構成されている団体で、男女共同参画社会の形成の促進に関する活動をする方を対象としております。また、男女共同参画に関する講座や講演会の開催及び情報の提供や相談事業を実施し、自分らしい生き方を応援する取り組みを行ってまいります。

市民合同相談・女性の悩み相談の会場変更について

印西市役所を会場に行っていた市民合同相談(法律相談、税理士相談、司法書士相談、人権よろず相談、行政相談、交通事故巡回相談)、また女性の悩み相談は、令和7年4月からコスモスパレット(中央駅前地域交流館)パレットⅡ3階市民相談室にて行います。詳しくはHPをご覧ください。

コスモスパレットアクセスについて

●電車でお越しの場合

北総線「千葉ニュータウン中央駅」南口から徒歩約4分

●お車でお越しの場合

代替駐車場(マルハン立体駐車場5階・6階)から徒歩約3分

※コスモスパレットの駐車場は現在整備を進めており、令和8年度の完成を見込んでいます。代替駐車場をご利用の際は割引処理ができますので、必ず駐車券をお持ちください。

●所在地 〒270-1340

印西市中央南一丁目4番地3

コスモスパレット

(中央駅前地域交流館)

パレットⅡ3階

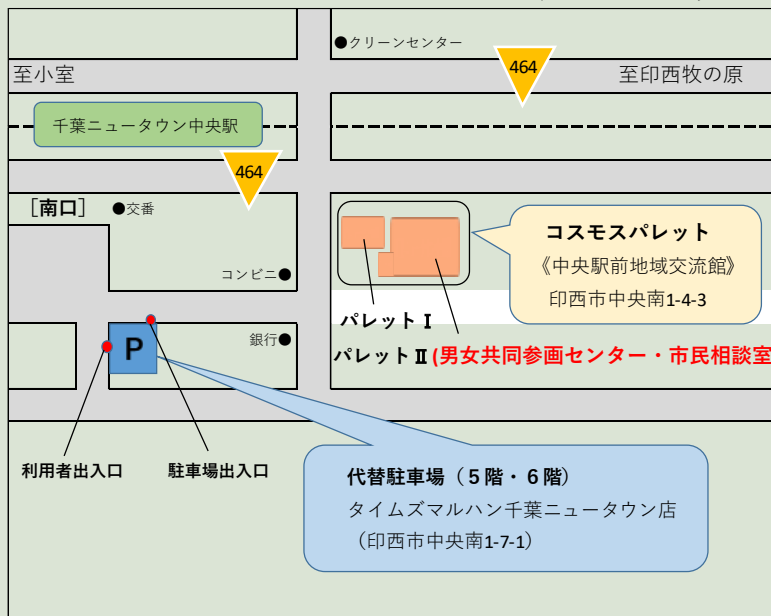
●電話

男女共同参画センター

0476-36-4174

市民合同相談受付専用

0476-36-4233





『ベルサイユのばら』

原作：池田 理代子

誕生から50年以上たった今も、映画化や舞台化されるなど、多くの人に愛されている少女漫画。主人公の一人オスカルは、男装の麗人となり、フランス国家と王妃マリーアントワネットを守ることを使命とします。時には運命に抗い、自分の生きる道に悩みながらも、その生き様はまっすぐで美しく、多くの人が魅了されました。フランス革命の1789年に制定された「フランス人権宣言」は、今日の人権の基礎にもなりましたが、あくまで男性市民のための権利宣言で、女性は従属すべき存在とされていました。

出張ライブラリー

男女共同参画



『日本の女性・ジェンダーのいちばんわかりやすい歴史の教科書』

飯田 育浩／著
グラフィック社
ISBN:978-4-7661-3856-6

印西市立図書館所蔵

2024.06出版

日本における女性の権利やジェンダー平等の取組が当たり前になるまでの、歴史を振り返った本です。12のテーマ別に、女性と社会のかかわりについてまとめられています。章末のコラムにも注目してみてください。どんなことも、知ることの第一歩から。

『科捜研の女 一劇場版』

「科捜研の女-劇場版-」製作委員会

今では聞かなくなってしまった“リケジョ”。ドラマ科捜研の女は、この言葉が生まれるよりも前から、京都府警科学捜査研究所の榎マリコが活躍しているテレビシリーズです。初回は1999年なので、驚きです。働く女性もさらに増え、ドラマのキャラクター像や発生する事件も変化し続けています。変わらないのは、いつも全力で仕事に打ち込むマリコや科捜研の面々が働く姿。2021年公開の映画では、その歴史の集大成を見ることができます。働くことの大変さも乗り越え解決していく清々しいミステリーに、京都の街が映えます。



男女共同参画



『家族全員自分で動くチーム家事』

三木 智有／著
ディスカヴァー・トゥエンティワン
ISBN: 978-4-7993-3041-8

印西市立図書館所蔵

2024.05出版

日本唯一の家事シェア研究家の本です。講演も多数行っている著者が、家事を始める前の計画書を作ってくれました。家事タイプを分類しそれに合わせたアドバイス等、生活スタイルを見直すポイントがわかります。家事に追われる毎日がちょっと変わるかもしれません。

3月8日 国際女性デーになるまで

「フランス人権宣言」後の1791年、フェミニズム運動の先駆者グージュが「女性のための人権宣言」を発表しましたが、国家反逆罪でマリー・アントワネットに続くギロチンで処刑された二人目の女性となってしまいました。その後も女性の権利を求める声は高まり続け、1908年3月8日アメリカのニューヨークで女性労働者の給与・待遇改善と参政権を求めるデモが起こり、ドイツではこの日を女性の日として祝う提案がなされました。1975年の「国際女性年」、国連が初めて3月8日を国際女性デーとして祝い、1977年、正式に「女性の権利と国際平和を祝う日」として決議されました。今日では世界各地でイベントの開催、様々なアクションが起こされています。